

「自助を徹底して」 八幡中で防災講座

静岡文化芸大生ら

浜松市八幡中学校（中区）で十九日、静岡文化芸大の学生や卒業生を招いた防災講座があり、全校生徒約四百十人が、自分たちができる防災を考えた。

年五回ある防災学習の一環。今回は中学生でも取り組める防災について、教員だけで伝えきれないことを教えてもらおうと、大学生らを招いた。

防災について学ぶ生徒ら
浜松市中区の八幡中で



講座では、防災・減災に必要な「自助」「共助」「公助」の三原則を紹介。その中でも自分の身を守る

自助が最も大切だと強調し、自助を徹底すること、他の人を助けることにつながると説明した。

また、災害時には水道・ガス・電気のライフラインが使えなくなることが想定されるため、日頃から食料品や水の備蓄が必要だと紹介した。

一年の川島遥花さん（三）は「身近なことが自分の身を守ると改めて知った。学んだことを家に帰ってから実践したい」と話した。

（山手涼馬）